

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 第11回部会

協議記録

日時：令和2年7月2日（木）13：30～

会場：大館市役所比内総合支所 3階 301会議室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 第11回部会 出席者名簿

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	再造林
2	素材生産者	(有)阿部林業	欠		
3		(有)島山造林	代表取締役	佐藤 四朗	再造林
4		(有)花田造材部	欠		
5		(有)伊東農園	代表取締役	伊東 毅	再造林
			部長	佐藤 保	再造林
6		(有)新林林業	総括部長	赤石 勝正	再造林
7		(有)山田造材部	代表取締役	山田 一成	再造林
8		山一林業(株)	欠		
9		石上木材	欠		
10		小林林業	欠		
11		(有)佐栄林業	欠		
12		(有)中田工業	欠		
13		(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	再造林
14	苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部	欠		
15		農事組合法人上仏社営農組合	欠		
16	製材・加工事業者	遠藤林業(株)	欠		
17		(株)沓澤製材所	代表	沓澤 一英	秋スギ
18		九島木材(株)	欠		
19		藤島木材工業(株)、藤島林産(株)	代表取締役	藤島 眞砂子	秋スギ
20		ニッ井パネル(株)	社長	鈴木 稔	秋スギ
21		古河林業(株)	所長	福森 卓	バイオ
22		ティンバラム(株)	欠		
23	木材需要者	大館曲げわっぱ協同組合	欠		
24		北秋容器(株)	欠		
25	木質バイオマス事業者	ポルター秋田(株)	経営企画部長	花田 元	バイオ
26		K S ウッドソリューション(株)	部長	村岡 広美	バイオ
27	木材流通事業者	物林(株)	国産材営業室	関口 祐之	再造林
			国産材戦略室	齊藤 政子	秋スギ
28	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	准教授	足立 幸司	アドバイザー
29	市村	大館市	林政課長	古川 泰幸	
			林政課長補佐	小棚木 信晴	
			林政課森林整備係長	杉山 利久	
			林政課森林整備係主査	安達 秀	
			林政課森林整備係主査	安保 貴洋	再造林
			林政課森林整備係職員	仲谷 寿敬	バイオ
			林政課木材産業係主査	赤坂 祐幸	秋スギ
			林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	秋スギ
30		北秋田市	農林課林業振興班副主幹	藤田 学	再造林
31		上小阿仁村	産業課林務商工班主査	田村 勇輝	バイオ

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	代表取締役	高田 克彦	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	行政機関	米代東部森林管理署	署長	一ノ宮 秀和	
			森林技術指導官	吉川 浩人	
2		米代東部森林管理署上小阿仁支署	支署長	後藤 敏	
			総括森林整備官	古川 博哉	
3		秋田県農林水産部	主幹(兼)班長	斎藤 正喜	
			主幹	木村 明憲	
4		秋田県北秋田地域振興局	主幹兼班長	工藤 純一	
			副主幹	小笠原 信幸	

第 1 1 回部会では、「令和 2 年度事業説明について」、「令和 2 年度各部会の取組方針・到達点について」について協議を行いました。

※再造林推進部会…「再造林部会」、秋田スギ・認証材利用促進部会…「秋スギ部会」、木質バイオマス利用促進部会…「バイオ部会」と表記。

【協議内容】

(1) 令和 2 年度事業説明について

○協定フィールド施業計画について<総務部会 部会長>

・計画の時期では、伐採植栽ともに時期が遅く、昨年は現場の作業状況や苗木の生育が悪かったため、時期を早めて余裕をもって施業したい。しかし、新型コロナウイルスの影響で市況も厳しいことから、実施について協議会で方向性を決めていただきたい。

○木材業界の現状について<総務部会 副部会長>

・新型コロナウイルスの影響により、3月以降は工場が3割近く減産し、スギ等の受け入れ制限も始まっている。伐採しても木の行先がないなど影響が出ている。唯一バイオマス工場が制限なく受け入れているが、先行きが中々見えない厳しい状況は夏以降続くと思われる。現在の状況では、大切な材を切るべきではないと考えている。今後、情報を共有しながらタイミングを考えて行かなければならない。

(2) 令和 2 年度各部会の取組方針・到達点について

○話題提供

<アドバイザー・秋田県立大学木材高度加工研究所>

・新型コロナウイルス蔓延による影響から、木材産業をとりまく現状は厳しいが、暗い要素ばかりではない。コロナによって見えてきた不要不急、必要火急の見極めや新しい社会の動きから、新たな視点を持ちピンチをチャンスに変える思考を持ってもらいたい。

◇新型コロナウイルス感染症の影響により生まれた新たな木材需要

・在宅における個室のワークスペース、作業に適したイスや机
・web会議用の内装
・密を避けるための新たな空間の在り方⇒屋内外共用の新しい家具
・バーチャル店舗やオンライン接客（新しい営業形態）
・コロナ後の復興に欧米では「グリーンリカバリー」を提唱。脱炭素推進をカギにしているという動きがあり、化石燃料の節約、再生可能なエネルギーの推進からSDGs等も活用できる。

＜森林資源バイオエコノミー推進機構(株)（委託事業者）＞

・既存の木材産業以外の分野で秋田スギを使いたいという会社がある。今は、理想や夢のような話でも、この地域に話を持ち掛けられた時、足立氏の話されたことを念頭においておけば絶対に武器になる。ビジネスチャンスをつかむためにも勉強して知識を持つておくことは大事である。

○グループワーク

◇再造林部会

・供給過多の状態では伐採による赤字を招く。情報収集に傾注しながら路網整備などに力を入れる。
・能代港経由の中国輸出（月2回）が幾分うまくいっている。
・比較的好調な木質バイオマスに挙ってシフトした場合、競争激化は避けられず、結局自然淘汰されることになる。

◇秋スギ部会

・設計段階で材が指定されてしまうため、早い段階での物件情報の共有が必要。
・情報があつてこそその供給スキームであり、非住宅分野の開拓も供給スキームが確立できなければ難しい。
・乾杯条例のような、秋田スギの利用を推進する条例があればよい。
・実際に公共物件等に利用することで波及効果が生まれてくる。
・設計者と製造側との情報交換の場も必要。供給困難な材の設計もある。
・大径材は造林側の協力も必要だが、トライアルで特殊材を供給してはどうか。

◇バイオ部会

・先進地視察について、岩手にバイオマス施設があり、廃熱でキノコを栽培するなどしている。また野田村にも大型バイオマス発電施設があるので、併せて視察したい。
・丸太はある程度あるが、チップ生産量はマイナスになる。消費先をもっと増やさないといけない。
・施設が近場ないと運搬費用などコストがかかる。バイオ施設をもっと欲しい。
・市村にも頑張ってボイラーやペレットストーブ等導入してもらいたい。
・コスト等も考えればやはり地元消費が一番。新規需要の開拓が必要。

○とりまとめ共有

◇再造林部会<部会長>

・現在の市況から、伐採に関して今年は見送った方が良いのでは。無理して市の財産を赤字で出すのは得策ではない。未植栽の場所への植栽、路網整備や育林に力を入れ、1～2年は我慢の時期なのではないか。10月の施業も見通しが見えないこの状況下ではあるが、8月の状況を見ながらの対応が必要なのでは。

◇秋スギ部会<部会長>

・優先順位1位と2位の問題として、地元の物件情報を早く共有できないか。供給スキームについても早め早めの情報がないと準備が遅れてしまう。その辺り確立してほしい。
・都市部に向けた非住宅分野の開拓も供給スキームが確立できなければ難しい。
・大径材の活用について再造林部会の方にも協力が欲しい。例えばフィールドを活用した36cm上の2×4向けの原木供給を、それを必要としている企業とアライアンスを組むことも含め、トライアルでもできないか。少しでも出口の見えるところに供給する体制を作るとするのがこの協議会としての役割になるのでは。

◇バイオ部会<副部会長>

・生産に対して使用量が少ない。域内で使えるようにバイオマス発電やボイラーを増やせないか。市村で公共施設へバイオマスボイラー等の導入を検討してもらいたい。
・需給調査の件について、再造林部会でも挙げられたが伐採を見送るとなった場合、バイオマスへの供給にも影響が出てくると思われ、こちらにどれだけ流れて来るのかという調査はこのコロナ禍ではなかなか難しいのでは。

○各部会へのコメント<森林資源バイオエコノミー推進機構(株) (委託事業者)>

◇再造林部会

・状況を見極めながら柔軟にやる、という事が大事だと思う。
・川下が動かない事にはまずい状況。部会を越えて出口を探していくことが大切。

◇秋スギ部会

・確かに情報をなるべく早く出せる仕組みづくりは重要だと思う。
・アライアンスに関しては、今あるアライアンスを新しいメンバーでやっていくのか、新しい取り組みとして新たなアライアンスを複数の事業体でやるのか、それによってやり方は変わってくると思うので、そこは引き続きの議論が必要かと思う。

◇バイオ部会

- ・秋田を含む東北ではA, B材は動きが鈍い。だがエネルギー関連はまだ動いておりF I T工場と言えば毎日稼働している。
- ・域内の稼働については各企業の努力ももちろんだが、行政的な措置があるとスピード感が違うので積極的に頑張ってもらいたい。

4. その他

○オブザーバーより

＜米代東部森林管理署上小阿仁支署＞

- ・昨年度から北秋田市、上小阿仁村と打合せをし、事業計画を情報共有して事業体をスムーズに見つけられるよう取り組んでおり、来年以降も続けたい。
- ・コロナ対応について、生産調整や販売調整は必要だが、あまり止めすぎると市況が動き始めた時対応に苦慮することもある。やり過ぎないように、市況が動いた時のスムーズな対応を考えながら難しいことではあるが、今年はやらなくてはならない。

＜秋田県農林水産部＞

- ・コロナの影響によりスムーズな活動がなかなか取りにくい状況ではあるが、成長産業化事業は4年目であり、成果を林野庁から求められていることもあり、地域の将来像や事業の目標に向けた取組など点検等お願いしたい。また到達点等の話し合いの内容を踏まえて今年度の活動を進めていただきたい。先の話になるが、継続検討について、その方針についても進めていただきたい。

○アドバイザーより

＜秋田県立大学木材高度加工研究所＞

- ・必要な時には必要なアイデアが出て来る。こういう時期だからこそ、お互いに情報を出し合って情報共有するということは非常に大事。これまで以上に新しい情報を交換し合って新しい道を探して行ければと思う。材料に関して、新しいものを求められていることは確か。欲しい人と作り手をつなげていき体制を作ることも大事。山の管理にもICTも含めた「今やれること」を考え、時間をうまく利用して新しいことに対応できるような体制を整えていただければと思う。

～閉会～

大館北秋田林業成長産業化協議会 第11回部会(令和2年7月2日)

